

## 規則 14-1b 案についてプレーヤーとオフィシャルへのガイダンス

規則案：

### 14-1b クラブのアンカリング（クラブを固定すること）

ストロークを行うとき、プレーヤーは「直接的」に、あるいは「アンカーポイント（固定点）」を用いることによって、クラブをアンカー（固定）してはならない。

**注1：**プレーヤーはクラブや握る手をどちらかの手や前腕\*に接触させることができることを除き、プレーヤーが意図的にクラブや握っている手を自分の体のどこかに接触させてクラブを持った場合、そのクラブは「直接的」にアンカーされたことになる。

**注2：**プレーヤーが意図的に前腕を自分の体のどこかに接触するようにして、クラブを握っている手を、その周囲でもう一方の手がクラブをスイングすることができる安定点とした場合、「アンカーポイント」が存在するものとする。

\*前腕とは、肘から手首までの部分をいう。

### 説明#1—クラブを直接的にアンカリングすることを禁止する根拠

Q. 規則 14-1b は、ストロークを行うとき、プレーヤーはクラブを直接的にアンカー（固定）してはならないと規定しています。この禁止の根拠は何ですか？

A. ストロークはゴルフゲームを定義する基本要素であり、プレーヤーが球に向かってクラブ全体を自発的にスイングすることを含むと意味しています。クラブをアンカリングすることは、クラブがまるで物理的に体にくっついているかのようにクラブの動きを制限すること、その結果ストロークにさらなる補助と安定性を与えることによって、プレーヤーが自発的なスイングを行う労力を軽減します。

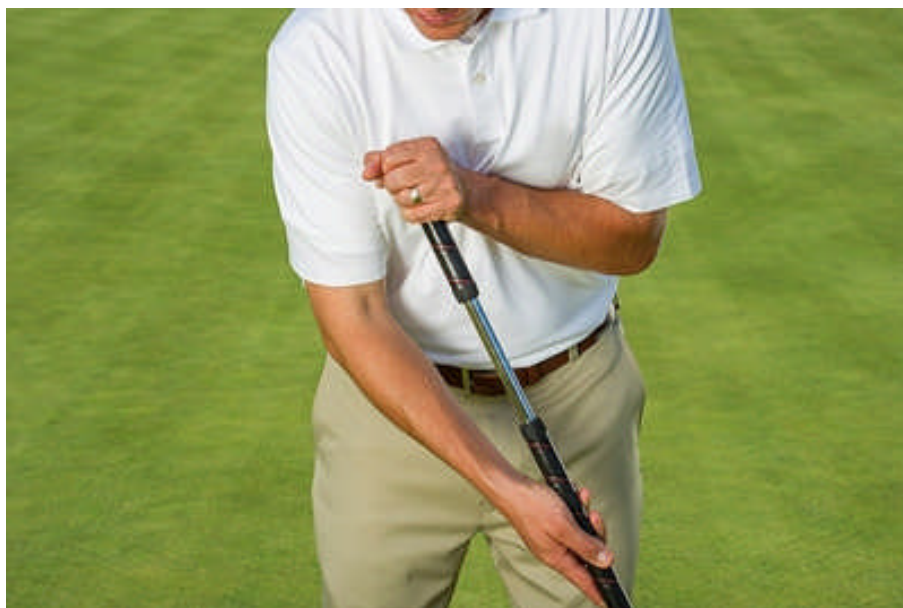
### 説明#2—アンカーポイント（固定点）の意味

Q. 規則 14-1b は、プレーヤーはストロークの間、アンカーポイント（固定点）を用いてクラブをアンカー（固定）してはならないと規定しています。アンカーポイント（固定点）を定義している注2で、「前腕を自分の体のどこかに接触するようにして、クラブを握っている手を、その周囲でもう一方の手がクラブをスイングすることができる安定点とする」とは何のことを意味しているのですか？

A. アンカーポイントの制約の狭義の目的は、プレーヤーがクラブやクラブを握った手を自分の体に着けると同じ効果を作り出す間接的な手段として前腕を用いることを防ぐことです。「クラブを握っている手を、その周囲でもう一方の手がクラブをスイングすることができる安定点とする」ために前腕を用いるということは、握ったそれぞれの手は、もう一方の手から独立して別の目的のために動作することができるということの意味しています。上側の握った手はスイングから除外され、体に着けられている前腕

によって固定され、まるで体に取り付けられて、固定点を作っているかのように効果的にクラブを固定します。プレーヤーは自分のもう一方の手だけを使い、クラブの下側の部分をこの固定点の周りで動かすことによってストロークを行うことができます。固定点を用いたそのようなストロークの実際の効果は、クラブやクラブを握った手を直接的にアンカーするストロークと同じです。

図解すると、下記のグリップスタイルは「アンカーポイント（固定点）」の使用を伴うので、こうしたグリップスタイルで行われたストロークは規則 14-1b の違反となります。



胸までの長さのパターを使っているプレーヤーは意図的に前腕を自分の体の側面や胸に着けており、その前腕の先の握った手は自分の胸の前の固定点に収められています。彼のもう一方の手はシャフトの下部を握っており、下側の手が上側の握った手で作られた固定点の周りでクラブをスイングすることができるようになっています（上記）。



短いパターを使っているプレーヤーが意図的に前腕を自分の太腿に着けて、その前腕の先の握った手が腰の前の固定点に収まるようにしています。彼のもう一方の手はグリップの下側を握っており、下側の手が上側で握った手で作った固定点の周りでクラブをスイングすることができるようにしています（上記）。

### 説明#3—アンカーポイント（固定点）があるかどうかを特定するための解釈的ガイドライン

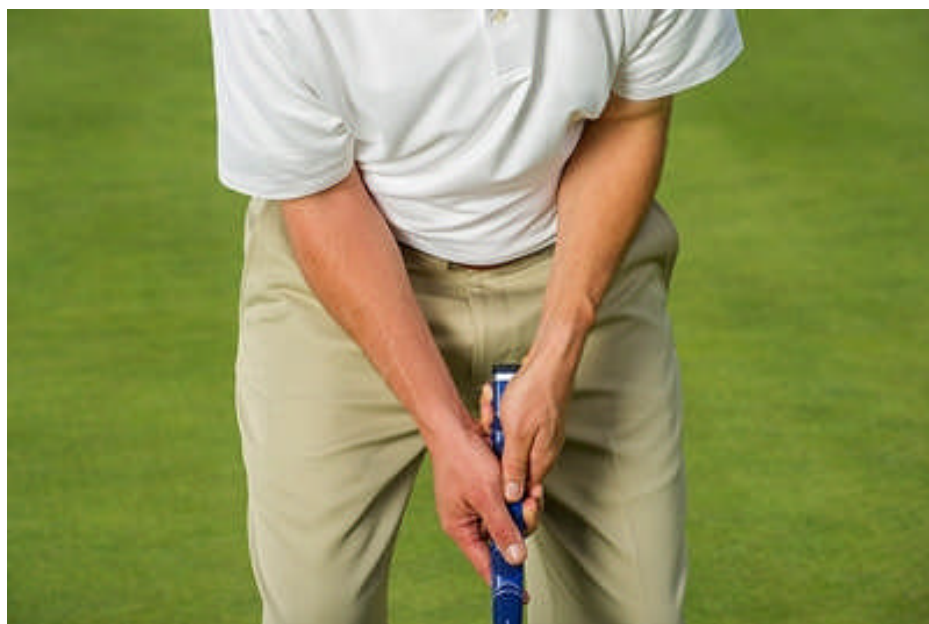
Q. 規則 14-1b は、前腕を意図的に体に着けるすべてのストロークを禁止しているわけではなく、アンカーポイント（固定点）が作られる場合のみを禁止しています。どの時点でプレーヤーはストローク中に意図的に前腕を体に着けたことになるのですか。また、アンカーポイント（固定点）が作られたのかどうかはどのように決定されるのですか。

A. アンカーポイントは(i)上側の握った手が、クラブをスイングするのではなく、クラブを所定の場所に固定する固定点としての役割を果たすとき、(ii)下側の握った手がシャフトの下側を握り、その固定点の周りでクラブをスイングするために用いられるときに存在することになります。

1. 前腕の先の手でクラブを逆手に握る場合でも、アンカーポイント（固定点）は存在するとみなされます。逆手の握りとは、握る手がプレーヤーの手首の下になるという伝統的なスタイル以外のすべてのグリップを意味します。ロングパターで一般に用いられている逆手のスタイルは、説明#2 の両方の写真のように手の親指側を上、手の小指側を下にする方法です。プレーヤーの上側の手がそうした逆手でクラブを握っている場合は、その手がクラブをスイングするのではなく、アンカーポイント（固定点）として用いられていることは明らかです。

2. プレーヤーが上側で握っている手を逆手にしておらず、握る両方の手がお互いに触れている場合、アンカーポイント（固定点）は存在しないとみなされます。2つの手がお互いに触れている場合、クラブをスイングするときに調和して一緒に動くことができます。ひとつの手が独立してクラブをスイングするために用いられている間、もう一方の手が意図的に体に効果的に着けられた別個の固定点に変換されることはないので、規則 14-1b 注 2 に定義されるアンカーポイント（固定点）は存在しません。

図解すると、下記のグリップスタイルはアンカーポイント（固定点）を伴いませんので、このグリップスタイルで行われたストロークは規則 14-1b の違反とはなりません。



意図的にひとつあるいは両方の前腕を体の側面に接触させているものの、このプレーヤーはお互いに触れあっている両手でクラブをグリップしています（上記）。

意図的に前腕を体に着けて上側の握った手を固定させるプレーヤーが、上側の手を逆手にして握らずに、手をお互い触れさせずに両手を離してクラブを握る場合、そのプレーヤーが上側の手を、その周りをもう一方の手でクラブをスイングすることができる固定点としているかどうかの決定が必要となります。そのプレーヤーの握る両手が触れてはいないものの、お互いにとても近接している場合、アンカーポイント（固定点）は存在しないと結論付けることもできるでしょう。もし握る両手が実質的に離れている場合、アンカーポイント（固定点）が存在していることはほぼ確実でしょう。

疑う余地をなくし、潜在的な罰を避けるために、前腕を体に着けて上側の握る手を固定させることを選ぶプレーヤーは、握る両手を接触させたままとすべきでしょう。また、両手を離してクラブを持つプレーヤーは、前腕を体に着けて上側の握る手を固定することを避けるべきでしょう。

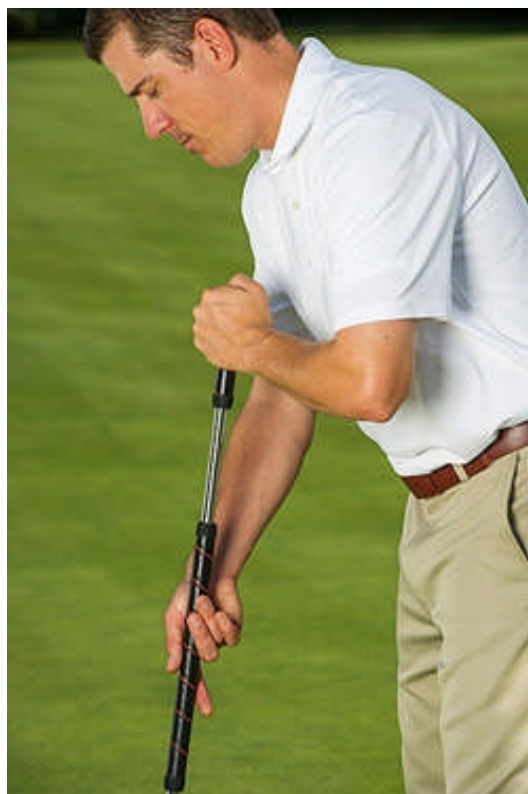
#### 説明#4ーアンカリングなしで行われるストロークには影響なし

Q. クラブ、握る手、あるいは前腕を意図的にプレーヤーの体に着けない場合、クラブを逆手で握る上側の手で持ち、および/または両手を離してクラブを握り、上側の手をその周りをもう一方の手でクラブをスイングすることができる固定点として保つという意図を持ちながらストロークを行うことは認められますか？

A. 認められます。規則 14-1b は直接的あるいはアンカーポイント（固定点）を作るために前腕を用いることを通じてアンカー（固定）されたクラブで行われるストロークだけに適用されます。そうしたアンカリングがない場合、体はストロークのために必要以上の支援を提供するためには使われず、プレーヤーは自発的にスイングすることができ、クラブ全体をコントロールしなければなりません。規則 14-1b はアンカリングが存在しないストロークには影響を及ぼしません。

図解すると、下記のグリップスタイルは直接的にも間接的にもクラブをアンカー（固定）しないので、そのグリップスタイルで行われたストロークは規則 14-1b の違反とはなりません。

プレーヤーはクラブ、握る手、あるいは前腕を自分の体に着けずに胸までの長さのパターを持っています（下記）。



## 説明#5ークラブ、手、前腕を接触させることを認める根拠

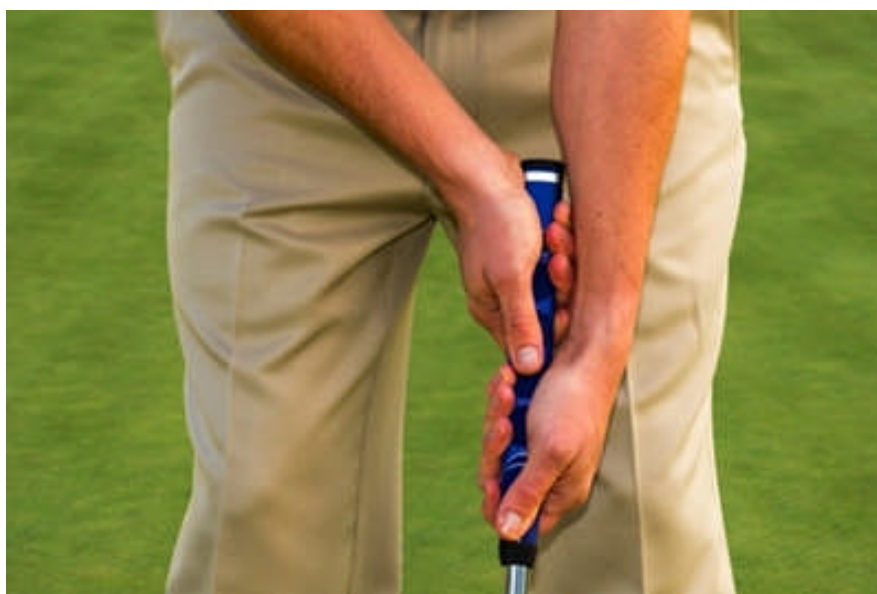
Q. なぜ規則 14-1b ではプレーヤーがクラブや握る手をどちらかの手や前腕に着けることを認めているのですか？

A. クラブを握るときにはプレーヤーの両手は必然的にクラブに触れることとなります。様々なグリップスタイルにおいて、プレーヤーがクラブのシャフトの上端（グリップの上側）ではなく下側を握る場合などは、クラブはストロークの間、プレーヤーの手首や前腕の他の部分に触れることもあるでしょう。

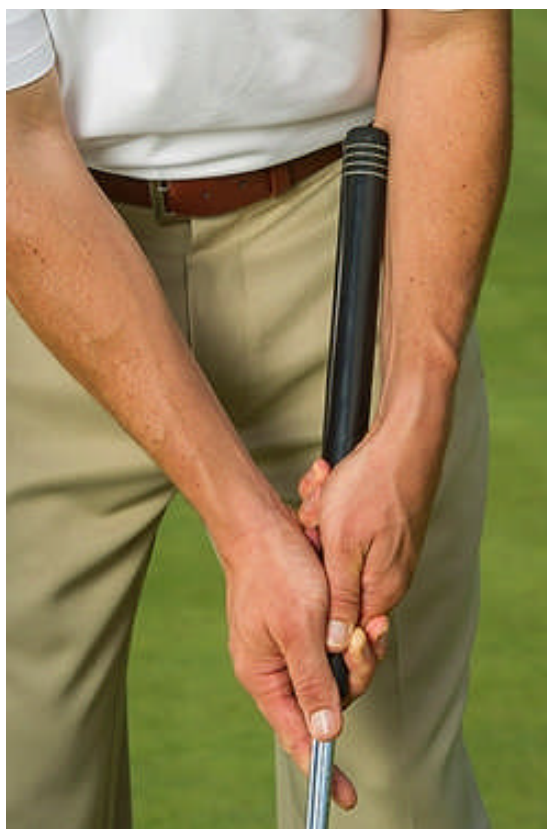
また、両手が上下逆（例えば、右利きのプレーヤーで左手が右手の下）で両手が離れている場合など、ストロークの間、握る手がプレーヤーの手首や前腕のその他の部分に触れることはきわめて一般的です。そうした接触は単にグリップ方法の結果であり、プレーヤーが自発的にクラブ全体をスイングすることを妨げることはありません。したがって、規則 14-1b 案の注 1 はその方法に関係なく、プレーヤーは意図的にクラブを両手および/または前腕と接触させて持つことができると明記しています。

図解すると、下記のグリップのスタイルは注 1 に基づき認められるので、そうしたスタイルでのストロークは規則 14-1b の違反とはなりません。

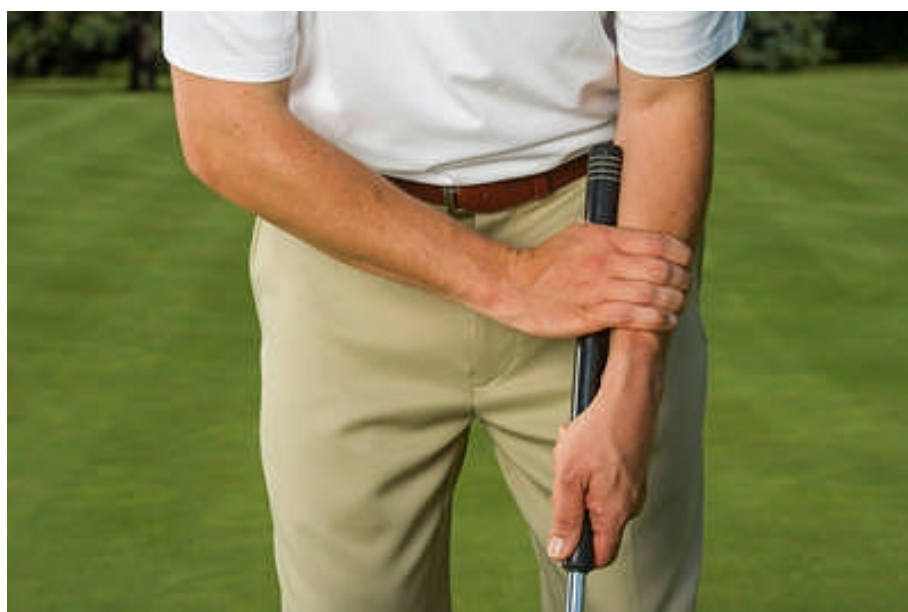
右利きのプレーヤーが「左手を右手の下に」する方法でクラブを握っており、2つの握る手は手首あるいは下側で握っている手の前腕に触れています（下記）。



このプレーヤーはクラブの一部が自分の前腕に触れるようにして長いパターの下のほうを持っています（下記）。



このプレーヤーは片方の手を、前腕を握ることによってその前腕とクラブを固定させるように使いながら、もう一方の手で長いパターを持っています（下記）。



しかしながら、クラブや握る手が意図的に上腕（肘より上）やその他の体の部分に着けられる場合、そのクラブはアンカー（固定）されたものとみなされ、そうした方法で行われたストロークはこの規則の違反となるでしょう。

注：規則 14-1b においては、「前腕」とは肘から下で手首までを含むものとする。

#### 説明#6—アンカー（固定）されるストロークの時点

Q. プレーヤーはストロークのある時点で直接的にクラブあるいは握る手をアンカーした、あるいはアンカーポイントを作るために前腕をアンカーしたが、ストローク中ずっとそうしていたわけではなかった。このプレーヤーは規則 14-1b の違反となりますか？

A. 違反となります。この規則はクラブ、手、あるいはアンカーポイント（固定点）がストローク中に完全に一箇所に不動で固定されたままであることを要求していません。そのプレーヤーがストロークのどの時点であっても意図的にクラブや握る手を体に触れさせていた、あるいはアンカーポイントを作っていた場合、規則の違反となります。